

第6回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合  
開催結果について（報告）

平成17年12月6日  
原子力委員会

1．主催

内閣府・原子力委員会

2．開催日時

平成17年12月1日（木）（上級行政官会合（SOM）は11月30日開催）

3．開催場所

東京都内

4．参加国

オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、  
タイ、ベトナム、日本（バングラディッシュがオブザーバー参加）

\* 我が国からは、松田科学技術政策担当大臣が首席代表として参加するとともに、近藤原子力委員長が議事全体を統括する議長を務め、町原子力委員が我が国コーディネーターとして参加した。また、原子力委員会より齋藤委員長代理及び前田委員が参加した。

5．議事概要

（1）開会セッション

冒頭に、今回の会合よりバングラディッシュがオブザーバー参加することが参加各国より承認された。

松田科学技術政策担当大臣が開会挨拶を行い、安全の確保、核不拡散の担保等を大前提として、放射線利用の進展への期待と原子力エネルギーの役割の重要性について我が国の考えを強調した。また、核不拡散体制の維持・強化が必要であることについて我が国の考えを述べ、F N C A 参加国の全ての未締結国に対し、追加議定書の締結等を呼びかけた。

## ( 2 ) 各国代表によるカントリーレポートの発表

セッション 2 においては、各国の原子力研究開発政策と F N C A 活動についての現況が各国代表によって報告された。各国とも放射線利用の分野における着実な成果を確認し、F N C A 参加国間での協力の促進の重要性を強調した。また、多くの国が地球温暖化問題への対応及びエネルギー安定供給の確保を図る観点から、原子力エネルギー利用の重要性を再認識した。

## ( 3 ) 円卓討議における主要合意事項

セッション 3 においては、各国代表による政策対話の場である円卓討議を行い、テーマとして「アジアにおける人材養成」を取り上げるとともに、科学技術政策との関連も視野に入れた「科学技術と原子力」についての議論を行った。議論の概要以下のとおり。

### 「アジアにおける人材養成」

- ・ 昨年ベトナムより提案されたアジア原子力大学構想は、S O M 等における議論の結果、参加各国の既存の教育訓練プログラムを有効活用するための有機的な連携ネットワークである「アジア原子力教育訓練プログラム( A N T E P )」として円卓討議に報告された。それに基づき、A N T E P に関わる基本構想、各国の参加・貢献のコミットメント、今後の構想の具体化の進め方及びスケジュール等について合意が得られた。
- ・ 各国コーディネーターは、来年 1 月末を目途に各国の貢献とニーズについて事務局に提出し、3 月のコーディネーター会合において具体的

実施策の議論を行い、その結果を次回大臣級会合に報告することが要請された。

「科学技術と原子力」

- ・ 冒頭、松田大臣から論点紹介を行い、参加各国から高い評価が得られた。また、日本がこれまで原子力に関する国民理解を得るために行った経験について各国の高い関心が示され、さまざまな提案や経験が議論された。
- ・ 日本の松田大臣はアジア各国の科学技術政策担当大臣による政策対話の重要性について触れ、複数の代表がこの考えに賛意を表明した。

(4) サマリー

最後に大臣級会合のサマリーをとりまとめ、その中で、第7回FNCAは2006年にマレーシアで開催される事が確認された。

(以上)

## 第6回FNCA大臣級会合 各国首席代表

[日本]

松田 岩夫

科学技術政策担当大臣

[オーストラリア]

Dr. Ian Oswald Smith

オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)  
理事長

[中国]

Mr. Sun Qin (孫 勤)

中国国家原子能機構 (CAEA) 主任

[インドネシア]

Dr. Hudi Hastowo

研究技術省 官房長

[韓国]

Dr. Seok-Sik Choi

科学技術部 (MOST) 次官

[マレーシア]

Dr. Jamaludin Jarjis

科学技術革新省(MOSTI) 大臣

[フィリピン]

Dr. Estrella Fagela Alabastro

科学技術省 (DOST) 長官

[タイ]

Dr. Manoon Aramrattana

原子力庁(OAP) 長官

[ベトナム]

Dr. Le Dinh Tien

科学技術省 (MOST) 副大臣

(オブザーバー参加)

[バングラディッシュ]

Dr. Abdul Moyeen Khan

科学・情報・通信技術省大臣